

令和5年度 自己評価

岐阜県立大垣工業高等学校（全日制） 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。	
スクールポリシー	育てたい生徒像 グラデュエーション・ポリシー（GP）	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につけた生徒 ・将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒 ・心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒
	生徒をどう育てるか カリキュラム・ポリシー（CP）	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業・実習等では、課題解決へ向けて「主体的、対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 ・学ぶことや働くことの意義、目的をしっかりと考え、コミュニケーション力の向上を図り、ものづくりに関する知識、技能だけでなく、技術の変化に対応できる力の育成 ・生徒一人ひとりの個性や長所が伸長でき、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を待っているか アドミッション・ポリシー（AP）	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の分野に興味をもち、主体的、継続的な学びの姿勢で、未知の領域に挑戦しようとする意欲と熱意をもっている生徒 ・幅広い教養と高い専門性を得るため、自ら積極的に学び、考え答えを導きだそうとする行動力をもっている生徒 ・部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【生徒対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 53%(R3) → 52%(R4) → 62%(R5)</p> <p>(2) 「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 52%(R3) → 48%(R4) → 57%(R5)</p> <p>(3) 「ICT を活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、学習の理解につながっている」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 47%(R3) → 48%(R4) → 51%(R5)</p> <p>(4) 「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 55%(R3) → 51%(R4) → 59%(R5)</p> <p>・生徒アンケートの推移より、(2)や(4)で一定数の評価はあるが、生徒の自己評価では授業の内容に興味を持たず理解が進まない生徒が見受けられる。今後、更なる授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>【保護者対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「教員は授業をとおして、学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 56%(R3) → 54%(R4) → 50%(R5)</p> <p>(2) 「ICT を活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等</p>

	<p>での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 48%(R3) → 46%(R4) → 41%(R5)</p> <p>(3)「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 50%(R3) → 50%(R4) → 45%(R5)</p> <p>(4)「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しよう」と努力している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 49%(R3) → 50%(R4) → 47%(R5)</p> <p>・教職員の学習指導への取組について、保護者の理解を十分に得られるような新たな取組や改善が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇学習支援ソフトによる効果的・効率的な授業を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。</p> <p>◇魅力ある工業高校の発信。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・教務部、工業部が連携して推進</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>①学習支援ソフトの活用に関する研修会を複数回実施</p> <p>②研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催</p> <p>③本校の魅力が広く伝わる機会を充実させ、小中学生に伝わりやすい効果的な発信方法を検討し、実践する</p>	<p>①生徒による授業評価の結果</p> <p>②生徒・保護者アンケートの回答</p> <p>③研究授業・公開授業の教員間評価</p> <p>④研究授業・公開授業の実施件数</p> <p>⑤生徒・職員アンケートの回答</p> <p>⑥イベントや説明会などの実施件数</p> <p>⑦入学希望者の数</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①普段の授業の中で、学習支援ソフトの積極的な活用がみられた。</p> <p>②授業アンケート結果をもとに、事後研究会を行い、指導力向上と授業改善に活かした。</p> <p>③中学校への説明会や出前授業に、中学校の卒業生が動向する取組を行った。</p>	<p>①生徒を対象とする授業アンケートの結果</p> <p>②生徒による授業評価の結果</p> <p>③イベントや説明会などの実施件数</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度も多くの研究授業や公開授業を行って頂けた。普段の授業の中でもICT機器や学習支援ソフトの積極的な活用が定着している。</p> <p>△生徒の自己評価アンケートで「授業中の積極的な発言」が他の質問と大きく異なる。生徒が参加しやすい雰囲気づくりや授業の方法を考える必要がある。</p> <p>△ICT活用や学習支援ソフトの活用に関心を持つ教員は多いが、日常的な指導や業務に時間を取られ、授業研究の余裕がない。</p>	
総合評価		
A B C D		

令和6年度
12 重点項目
<p>◇生徒が参加しやすい雰囲気づくりや授業の方法を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。</p> <p>◇魅力ある工業高校の発信。</p>
13 具体的実践内容
<p>・ICT活用や授業改善に役立つ研修会の提供。</p> <p>・研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催。</p> <p>・本校の魅力が広く伝わる機会をさらに充実させ、小中学生に伝わりやすい効果的な発信方法を検討し、実践する。</p>

2 評価する領域・分野	◇生徒指導（含教育相談）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育目標を理解し、入学後に規範意識が向上している。 スマホの長時間の利用により、学習などの大切な時間を奪っている。 学校生活、進路、家庭、友人関係の中で様々な悩みを抱え、長期欠席となる生徒が多く在籍している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的な生活習慣の育成。 ◇教科、ホームルーム指導、部活動を通して倫理観や規範意識を体得させる。 ◇交通事故防止啓発活動などを通して、マナーや危険予測能力や危機管理意識を高める。 ◇教育相談の充実とチームサポートにより不登校生徒、発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする。 ◇「いじめ」の未然防止、早期発見のための組織的対応の推進。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 登校時、遅刻時のルールの徹底、登校生徒状況の共有化 生徒情報の共有化（支援が必要な生徒情報の迅速化） 指導、支援のマニュアル化と報連相の徹底 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①登校指導時の交通安全、身だしなみの指導 ②各種アンケート、個人懇談によるいじめに対する早期の組織対応 ③支援生徒に対する外部機関との連携	①前年までの統計との比較 ②いじめの早期発見と対処が出来ているか事後指導 ③支援生徒の生活改善	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①登下校時の交通安全、身だしなみの指導 ②支援生徒に対する外部機関との連携 ③予鈴前登校指導、遅刻指導の継続実施 ④アンケートの実施と注意喚起、早期の組織対応 ⑤授業規律の確立を推進するとともに授業環境を整える。	①組織的にサポートできたか ②落ち着いた授業の雰囲気 ③職員間で連携が取れたか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○風紀委員（MSL）を中心として登校時と下校時に『マナーアップ』運動を行った。登校の状況から学校周辺でのマナーは向上していると感じられるが、下校時や校外でのマナーの意識は気の緩みを感じられる。 またヘルメットの着用の意識の向上も今後の課題である。 △いじめに対する感度が高まり、未然防止の対応することができているが、偏った自己表現、コミュニケーション不足によっていじめに起因する問題が多くなっている。 △自己の居場所や役割を実感させるとともに、学校の一員としての責任を持たせることと、工業高校で学ぶ意義や目標を常に考えさせながら学校生活を送らせることが必要。 ○問題行動や不登校等に対して、ケース会議の開催やスクールカウンセラーの活用、外部の専門機関との連携ができた。	
総合評価 A (B) C D		

令和6年度
12 重点項目
◇自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的な生活習慣の育成。 ◇教科、ホームルーム指導、部活動を通して倫理観や規範意識を体得させる。 ◇交通事故防止啓発活動などを通して、マナーや危険予測能力や危機管理意識を高める。 ◇教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする。 ◇「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進。

13 具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全、交通マナー、挨拶、身だしなみの指導。 ・見守りと情報共有による問題行動の未然防止、心のアンケートやいじめ調査の実施と早期の組織対応。 ・支援生徒に対する指導方法の周知と外部機関との連携。

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は全員進路先を決め、進学希望者も一部の生徒を除き、ほとんどが進学先を決定することができた。 ・生徒は「進路の手引」は活用できているが、「大工未来手帳」は、あまり活用できていなかった。 ・基本的な生活習慣が身につけていない生徒やコミュニケーション力の低い生徒の増加で、1年次からの進路指導が難しくなっている。 ・進路指導に関するアンケートの結果、昨年度と比較して肯定的な回答は、生徒より保護者の方が低い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇「キャリアパスポート」と「大工未来手帳」の併用と必要性の向上。 ◇基礎力診断テスト実施のため、関係教科と連携および事前学習の準備期間を確保する。 ◇生徒が進路選択をする上で、企業が求める人材を把握、自身の現状と比較し、ミスマッチがないように促す。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動において、「大工未来手帳」を活用できるように全職員に協力依頼し推進に努める。 ・基礎力診断テストの結果が進路選考基準の対象となることを周知し、事前学習の取組を、学科や担任へ協力依頼して基礎学力の向上を目指す。 ・生徒の進路実現に向けて学科や担任の協力で、進路キャリア講座やガイダンスを実施する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①進路に関する行事やガイダンスを通して、生徒が手帳を活用できる機会を増やし、進路実現に向け取り組ませる ②就職、進学を問わず、基礎学力向上のため、「ワンウィークトライアル」を早期に配付し、リピータ学習できる期間を設けて取組の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ①「進路の手引」「大工未来手帳」の活用状況調査 ②基礎力診断テストの結果分析 基礎学力教材の到達度 進路決定率100%へ向けた達成度 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①「進路の手引」や「大工未来手帳」の活用を学年会等で職員へ依頼する。 ②進路ガイダンスでも基礎学力の重要性を周知してある、基礎力診断テストに向けて事前学習教材を早めに配付し学習できる時間を確保することができた。 ③進路希望に対する適切な指導がある程度できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「進路の手引」「大工未来手帳」の活用度 ②基礎学力事前学習教材の活用度 ③進路選択先の合否状況 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D

11 成果 課題	<p>○今年度の本校への求人数は、コロナ前にまで回復し就職希望者1人当たり13.7倍となったが、1次試験で不合格になったのは、昨年よりも増加し5.3%(公務員を含む)であった。</p> <p>△インターンシップを含む本校のキャリア教育の実施から、生徒の様子が従来と比較してさらに多様化し、個別に対応が必要な案件が、かなり増えてきている。</p> <p>△基礎力診断テスト事前学習の効果が全体的には、まだ不確かである。</p> <p>△「大工未来手帳」を活用する生徒が全体としては少なく、今後、手帳を継続していくのかを見直す必要がある。</p> <p>△希望企業を選択する際に、企業が求める人材と自身の現状や適性とのミスマッチがないかを理解させる必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
----------------	--	------------------------------

令和6年度	
12 重点項目	
<p>◇進路意識を高め、社会人基礎力が身につくように指導の工夫をする。</p> <p>◇基礎力診断テストの実施後の追跡調査と基礎力向上のための事前学習への取組の向上を目指す。</p> <p>◇2年次後半には具体的な進路目標を決めて、自分の希望に適した進路選択ができるように工夫をする。</p> <p>◇進路業務のDX化を検討する。</p>	
13 具体的実践内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・「大工未来手帳」の活用で自らのスケジュール管理をすることや「キャリアパスポート」との関連付けを推進する。 ・ガイダンスや講話等の内容が、生徒の実態に合うのかを確認しながら職員の協力で実践する。 ・基礎力診断テストの実施に向けて生徒と職員の意識を高め、生徒の実態に合わせた基礎学力の向上を図る。 ・インターンシップ実施のあり方について検討することや、工業科との連携で現場・企業見学等の実施を図り専門高校である本校ならではのキャリア教育を実践していく。 ・求人票の管理について、DX化への検討をしていく。 	

2 評価する領域・分野	◇工業
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県ものづくりコンテストにおいて優秀な成績を収めることができた。 ・これまでの出前授業の継続実施が定着し、中学校における活性化事業実施時に多くの要請を受けることができた。 ・地域諸団体との連携活動を実施し、地域住民に本校の取組が周知された。新聞や情報誌での記事掲載も効果的であった。 ・本校ホームページNEWS欄への投稿が活発化した。 ・コロナ禍の影響による各種連携事業に復活の兆しが見えてきた。 ・SDGsを導入する企業が拡大している現況を鑑み、教科横断的な指導体制を確立する必要がある。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇岐阜県高等学校教育研究会工業部会よりいただいた研究テーマ「安全教育と新学習指導要領に基づく工業教育の実践」を鑑み、今年度の本校研究計画として5つの具体的な研究項目を掲げた。(下記「6目標の達成に必要な具体的な取組」に記載)</p>

<p>5 重点目標を達成するための校内における組織</p>	<div style="text-align: center;"> <p>事務部長 ↓</p> <p>校長 — 教頭 — 工業部 — 学科主任会</p> <p>↑</p> <p>教務主任 生徒指導部長 進路指導部長</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>工業庶務</p> <ul style="list-style-type: none"> — 渉外(外部との窓口) — 会計(工業諸費関係) — 広報(広報委員、学校PR、HP、報道、記録誌) — 行事(地域主催イベント支援、中学校教員向け見学会) — 地域連携(大垣市、東海職能、たくみアカデミー) — ふるさと教育 </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> — 課題研究担当 — 資格試験担当 — 産振設備品担当 — テクノコラボ担当 </div> </div>
-------------------------------	--

<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>
<p>①安全対策指針の策定と実践による安心安全な教育活動の展開</p> <p>②「開かれた教育課程」の編成による地域産業のニーズに応じた人材の育成</p> <p>③地域連携活動による効果的な生徒育成と地域住民の工業教育への興味関心の高揚</p> <p>④工業高校入学志願者の増加</p> <p>⑤SDGsの視点を有するグローバル人材の育成</p>	<p>①各行事に参加した生徒の反応と感想</p> <p>②各行事における参加者(地域住民など)の反応と感想</p> <p>③新聞記事などの掲載回数</p> <p>④本校ホームページへの記事掲載数</p>

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①安全対策指針の策定と実践による安心安全な教育活動の展開</p> <p>実験・実習の事故ゼロを目指し、今年度から新たな取組として校内組織に5S推進委員会が設置された。今年度は3回の会議を開催し、各学科での安全な実習環境の構築と安全対策に関する情報共有を行った。</p> <p>併せて、工業部において安全対策指針を作成し、安全対策組織の構築、実習指導用資料の見直し、ヒヤリハット報告・事故発生報告の掲示および教員への周知などを展開した。</p> <p>②「開かれた教育課程」の編成による地域産業のニーズに応じた人材の育成</p> <p>今年度から本校は特別講話のような形式だけでなく、普段の授業においても「開かれた教育課程」を実現し、地元企業有識者から企業の最新・最前線の情報収集やプロの技術を目の当たりにしながらのハイレベル技術の修得を目指している。</p> <p>【実施項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械工学科…溶接実習：(株)ハラテックス ・電子機械工学科…機械検査実習：(株)関ヶ原製作所、半自動溶接実習：コベルコ建機(株)、シーケンサ実習：新興機械(株) ・電気工学科…電気工事实習：西濃電気工事協同組合 ・電子工学科…通信実習：和光通信(株) ・情報技術工学科…デザイン実習：トライデントコンピュータ専門学校 <p>③地域連携活動による効果的な生徒育成と地域住民の工業教育への興味関心の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノコラボレーション… <p>大垣特別支援学校との協働によるテクノコラボレーションを今年度も取り組んだ。今年度は、(1)ポールスロープ2台(機械工学科、建築工学科)(2)ポスト1台(機械工学科)(3)ポール発射台2台(機械工学科・電子機械工学科)(4)木製の干支1組(建築</p>	<p>①教員の安全に対する意識を高めることができたか。</p> <p>②学習環境の安全化を図ることができたか</p> <p>③豊かな地域資源を認識することができたか。</p> <p>④教員が技術指導力を高めることができたか。</p> <p>⑤生徒に実践的なコミュニケーション能力が身についたか。</p>	<p>① (A) B C D</p> <p>② (A) B C D</p> <p>③ (A) B C D</p> <p>④ A (B) C D</p> <p>⑤ (A) B C D</p>

	<p>工学科)の6つの学習用教材を製作した。12月21日(木)に大垣特別支援学校において贈呈式を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市こどもICT講座 12月2日(土)・3日(日)・9日(土)、3Dプリンタ体験・ロボットカー製作およびプログラム制作を実施した。電子機械部部員5人が講師として参加した。 自作電車の運行イベント 電子機械工学科は3会場、電気工学科は1会場で作電車を運行した。会場では行列ができるほど子供たちに大人気のイベントであった。 地元企業との連携による自動生産システム開発 安藤鉄工株式会社と電子機械工学科が連携協定を結び、自動生産システム協働開発および工業技術修得協働学習に取り組んでいる。 <p>④工業高校入学志願者の増加</p> <p>入学志願者数減少が本校の大きな課題である。課題解決を目指し、中学生一日入学、高校見学会、出前授業などの体験内容を充実させた。併せて、各学科の魅力ある取組内容および生徒が活躍する姿を外部へ広報できるよう、本校ホームページへの掲載も積極的に行った。以下に代表的な取組を記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の高校見学会 7月25日(火)～27日(木)の3日間実施した。41校から中学生、保護者を含め785名の参加があった。新しい試みとして、豊栄館にて、地元企業の人事担当者をお招きし、学校説明と共に、本校卒業生が企業でどのような活躍をしているか等、保護者にお話しいただく場を設けることができた。中学生に対しては、各学科群、学科ごとに概要説明を行った 一日入学 10月3日(火)・4日(水)の2日間実施した。35校から中学生354名の参加があった。中学生が3学科群1学科から2つを選択し、実習体験を主とした内容が、大変好評であった。 出前授業 西濃地区の小中学校に対して工業高校の専門分野の知識・技術を生かし、中学校などからご希望いただいたテーマに基づき下記の場所での出前授業を実施した。 【出前授業実施団体】・平田中学校・日新中学校 ・神戸町立図書館・江並中学校・興文中学校 ・大垣北中学校・大垣東中学校 <p>⑤持続可能な視点を有するグローバル人材の育成</p> <p>今年度も環境SDGs おおがき未来創造事業(サンメッセ(株)主催)に参加した。今年度は(株)松永製作所から講師を招き「車椅子とSDGsのつながり」をテーマに計3回の授業が展開された。授業のゴールとして、SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」を中心に企業様と生徒が共に考えた。3月には、車椅子でも住み続けられる大垣市について公式の場で発表することを予定している。</p>	<p>⑥地域住民の本校への興味関心を喚起できたか。</p> <p>⑦地元中学生の工業高校への興味関心を喚起できたか。</p> <p>⑧本校HPへの投稿は昨年度より増加したか。</p> <p>⑨生徒が持続可能に関する視点を身につけることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成 果 課 題	<p>○岐阜県ものづくりコンテストにおいて優秀な成績を収めることができた。</p> <p>○これまでの出前授業の継続実施が定着し、中学校における活性化事業実施時に多くの要請を受けることができた。</p> <p>○地域諸団体との連携活動を実施し地域住民に本校の取組が周知された。新聞や情報誌での記事掲載も効果的であった。</p> <p>○本校ホームページNEWS欄への投稿が活発化した。</p> <p>△SDGsを導入する企業が拡大している現況を鑑み、教科横断的な指導体制を確立する必要がある。</p>		<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>

令和6年度
12 重点項目
<p>◇教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>◇大垣市や地元の企業・教育機関等と連携を今後も継続し、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。</p> <p>◇出前授業やものづくり体験等の地域との連携活動運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への興味関心を高める。</p> <p>◇本校入学志願者の増加に向け、継続的に広報活動に注力する。</p> <p>◇これまでの本校における取組を継続しつつ、SDGs の視点を有するグローバル人材を組織的に育成する。</p>
13 具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・外部の支援を受けて実施する企業見学会などの見学会の実施。 ・テクノコラボレーション、地域諸団体との連携事業、出前授業、SDGsを題材とした外部機関との連携などの継続実施。 ・中学生一日入学や高校見学会での体験内容を充実する。併せてパンフレットなどの配布物作成に積極的に取り組む。 ・各学科の魅力ある取組内容や、本校の生徒が活躍する姿を外部へ広報できるように、ホームページへの掲載を積極的に行う。

II 学校関係者評価

実施年月日 令和6年2月13日

<p><学校運営全般に関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のいじめ事案では、感覚過敏の生徒が被害を訴えているケースが多い。まずは「そういうふうに捉えたんだね」と傾聴することが大事である。また、自己表現できない生徒については、YES か NO で答えられる問、または選択肢を用意してコミュニケーションをとることに心がけて欲しい。 ・入社して悩み自死を選択するという悲しい話を聞くことがある。「命の大切さ」について、3年間に一度は講演会などで話を聞く機会を設けて欲しい。担任が生徒に語りかけることも大切だと思う。 ・進路指導について、就職率100%も大切だと思うが、親の立場からするとミスマッチによって離職しないような指導にも力を入れて欲しい。(周囲で会社を辞めた話を聞くことがある) ・教務、生徒指導、進路のいずれも、多様な生徒に対応するために仕事が増えている気がする。思い切って止める業務を考えることや、進路の次年度目標にあるDX化で仕事のスリム化を考えるといったことが必要になってくる。 <p><課題研究発表および工業科の取組について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会は普段の勉強(実習)の成果が分かるとともに、社会で働いてい基本を学んでいることが感じられる素晴らしい発表会であった。堂々と発表しており感心した。 ・実践形式の学びがあり社会に出た時の能力を養っていると感じる。外部連携などでコミュニケーションが高まることは非常に良いこと。自分の子どもも3年間で成長できている。 ・生徒が探究活動の中で失敗の中から学んでいることが素晴らしい。私たち素人にも分かるように発表していた。発表者の中に小さい時に関わった生徒がおり、成長している姿に感動した。 ・問題を解決していく能力が会社でも必要とされており、学校でこのような取組がされていることは素晴らしい。 ・生徒が課題を見つけている点も良い。今後の課題、解決できなかったことを、是非、後輩たちにつなげ、レベルを高めて乗り越えて欲しい。 ・他校連携や専門家との様々なつながりの中でコミュニケーション力が高められたのだと思う。他校や大学との連携、コミュニケーションをとるスキルのなどの向上にむけて、今後も生徒にいろいろな体験をさせ、より良い成果を出せるように指導を継続して欲しい。
--

<まとめ>

- 次年度にむけての重点項目、具体的実践内容については、自己評価の記載内容で進める。
- 命の大切さに関しての意見は、今一度、生徒指導に伝えるとともに、講演会やホームルーム活動など方法を検討して取り組む。
- 感覚過敏の生徒の事案がこれまでもあった。傾聴することや手をかけることが重要であること、そして個々に合わせた指導方法を選択していくことの重要性について、全職員に伝えて円滑な指導につなげる。
- 離職率調査については一部で実施しているが、表に情報が開示されていない情報もあるため事実の把握が難しい。頑張らせることの重要性と、無理を避けることの重要性のバランスを考える必要がある。全体指導と個別指導の多面的な指導を行う。
- 進路指導に関する DX 化の取組については、まずは求人情報の検索などが便利になる仕組みのシステム作りを具体的に検討しているため、この内容について推進する。
- 来年度は、スクールミッションについて検討することになるので、それぞれの立場からの意見を出し検討を進める。
- 次年度には学校運営協議会の委員に定時制の様子を見学できる機会を設定できるよう検討する。